

## 「『高遠ぶらり』プロジェクト」

実施団体：伊那市立図書館・「高遠ぶらり」制作委員会（実施エリア：長野県伊那市及び伊那谷全域）

地域では、顧客視点での観光促進や地域学習の充実に寄与する取組等が十分とはいえない。また、図書館等の公共施設や地域住民は、地域の膨大かつ多様な情報資産（文献・書籍等）を蓄積しているにもかかわらず、これらが分散しており、統合的にアクセスできない。さらに、口承による情報資産や近代資料については、喪失のリスクが存在する。これらに対応するため、本事業では、iPhone/iPadで利用できる、観光・地域学習用デジタルマップ（古地図等）を制作し、デジタルマップ上にGPS情報を表示する街歩きナビゲーションツールを制作する。これを活用した現地プログラム（観光・地域学習ワークショップ等）を開催しつつ、古地図、コンテンツ情報（写真・テキスト・映像）など地域情報資産のデジタル化作業を実施する。

### 地域課題

- 地域には膨大かつ多様な情報資産（文献・書籍・博物・写真・映像・口承等）が蓄積されているが、分散しており、総合的・横断的に活用できる仕組みが整えられていない。
- 地域学習（学校教育・生涯教育）の充実、観光促進に向けて、地域を構築する主体（図書館や博物館等の公共施設のMLA連携※に加え、事業会社、住民等）が連携した取組が不足しており、魅力的な地域を継承・発信する力が不十分である。

※MLA連携：博物館（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）の文化的情報資源等の収集・蓄積・提供に向けた連携のこと。それぞれの頭文字をとってMLAと呼ぶ。

### <事業の経緯・背景>

### 目的・目標

- 観光客に対する新しい観光ツールの提供によって、地域認知度向上と観光客の満足度向上を実現する。
- 生涯学習及び学校教育用のツールと参加型学習・創造プログラムの企画提供により、新たな地域学習の方法及び機会を創造する。
- 地域文化資産及び観光情報のデジタルアーカイブ化の促進と地域情報資産活用の基盤を構築する。
- 広域の地域自治体・地域団体（主に上伊那地域市町村社会教育・文化財担当部門、観光振興組織、学校等）と市民社会組織との連携・協働のモデルを構築する。

## 地域の情報資産を継承するため、情報資産を統合的に管理する仕組みが必要

## 先人たちが伝え、守ってきた史歴を後世に伝え、魅力的な地域を住民・観光客に発信

### --事業の経緯・背景を教えてください。

地域には膨大かつ多様な情報資産（文献・書籍・博物・写真・映像・口承）が蓄積されていますが、それが図書館や博物館等に分散しており、総合的横断的に活用できる仕組みが整えられていません。地域に根ざした図書館づくりを目指す伊那図書館では、これらの地域情報資料をデジタルアーカイブ化する計画を常日頃検討していました。そのような時に、偶然参加したデジタルアーカイブ化に関するシンポジウムにて、「ATR Creative」さんと出会い、地域情報資料のデジタル化と活用技術を拝見しました。その際、「多くの地域歴史書を所有する伊那市で実施したら、面白いのではないか」と思い、本事業を実施することにしました。



伊那市 伊那市立図書館 安江 輝氏（左）  
平賀 研也氏（中央左）  
諸田 和幸氏（中央右）  
伊那谷ソーシャルメディア研究会事務局 鄭 詒敏氏（右）

### --事業内容について、教えてください。

本事業で制作したソフトは、iPhone/iPadで利用できます。伊那の古地図をデジタル化し、古地図上にGPS（全地球測位システム）の現在情報を表示させます。したがって、利用者に対し、古地図の世界に現在の自分が存在するような感覚を与えます。古地図上に表示されたランドマークピンをタップすると、その地点に関する歴史・地域情報を提供します。それらの情報に関しては記事や写真でわかりやすく、解説しています。



画面遷移のイメージ。古地図上のランドマークピンをタップすると（左図）、次の画面にて当該ポイントの史歴情報を知ることができる（右図）。

古地図を見ながら、現在の空間を移動することで、異なる2つの時代空間を実感しながら、地域を散策し、学習・観光することができます。



デジタル化した古地図：池上秀敏作 旧高遠城之真景（左）、高遠城下町絵図（右）

--古地図や地域情報は、図書館に蓄積されている資料をデジタル化したのでしょうか。

古地図に関しては、基本的に図書館やその他公共施設に蓄積しているものをデジタル化しています。ただし、各地点の情報については、公共施設が管理する情報に限りません。本事業を進めるにあたっては、多くの地域住民の方とワークショップを行い、ランドマークピンを立てる場所の検討を行いました。公共施設が所有する情報に、地域住民の方が持ち寄った情報や資料を加えて、コンテンツ情報を制作しました。これらの取組からわかったことは、伊那市にお住まいの皆さんは、歴史や自然、くらしの情報を大切にし、現在でも多くの情報が存在することです。これらの価値の高い情報を統合的に管理し、後世に継承しなければならぬと感じました。



右上図：図書館等が所有する情報（写真）を選定する様子。

右下図：制作プロセスにおけるワークショップにて、住民の方が所有する史歴情報を共有する様子。



<利用者の声>

デジタル情報とリアルな現地体験の組み合わせが、“今までにない知る楽しみ”を創造。  
観光資源を伝えるツールとして、新しいガイドや観光提案を実施することができます。

--制作したソフトを活用して、どのような取組を行っていますか。

地域住民の方を巻き込んだワークショップ等を開催しています。実際にサービスを利用しながら、地域住民の方と、地域を巡る活動を行いました。



上図：「高遠ぶらり」実施の様子（写真中央に建てられているランドマークピンが、端末上の古地図上に掲載されているランドマークピンとリンクしている。）

また、単純に事業サービスを利用して地域を巡るのみでなく、古地図上に掲載されているランドマークピンを現実世界のその土地に作成し、携帯端末なしでも、デジタル化した昔の時代と、リアルな現実世界の時代空間周遊をより楽しめる、観光客・地域住民向けのウォークラリーイベント、「高遠ぶらり」を実施しました。

--事業の目的に地域学習の充実を掲げていますが、どのように実践していますか。



地域学習授業のツールとして、本事業を提供しています。「高遠ぶらり」に参加した先生から、地域学習への活用の申し入れを受けたことがきっかけです。5つの班に分かれ、各班にiPadを1台、各班が古地図を手に10カ所のチェックポイントを回り、案内シールを集めます。途中、歴史博物館では本物の古地図を見せてもらうこともプログラムに組み込んでいます。



上図：地域学習授業として、「高遠ぶらり」を実施する小学生の様子（「高遠ぶらり」と同様に、建てられているランドマークピンが、端末上の古地図とリンクしている。）

同様に、長野県のボーイスカウトからも体験型歴史文化学習プログラムの要望を承り、「高遠ぶらり」を活用した、高遠城の史実やその自然環境について、楽しみながら、地域のことを発見・体験できるプログラムを提供しています。

このような取組は、地域の歴史を楽しみながら学べるプログラムとして、今後定着させたいと考えています。

また、地域の高校の経営情報コースの学生たちに対し、「地域を編集する」をテーマに取材・収集、編集、表現のプログラムを用意し、「高遠ぶらり」観光マップコンテンツを制作する、情報処理と地域学習を合わせた参加型授業を提供しました。学生たちには、地域の記事（タイトル・記事・写真）の作成と、「高遠ぶらり」の編集画面を利用したコンテンツ制作を体験してもらいました。学生たちの作成した記事は、「高遠ぶらり」の観光マップに掲載されています。

このような取組が、地域の情報を学び伝える喜びや、ICTを活用して表現できる喜びを得るきっかけとなり、学生自身の将来像の創造に貢献できたらと考えています。



上図：高校にて、「高遠ぶらり」の観光マップ作成方法等の授業を実施する様子。「地域を編集する」発見が、学生の進路や将来像を思うきっかけになることを願い、授業を実施。

--利用者からはどのような声が寄せられていますか。

「デジタル情報とリアルな現地体験の組み合わせが、今までにない知る楽しみを生んでいる」といった反響や、「観光資源を伝えるツールとして、新しいガイドや観光提案を実施することができる」といった声を伺っています。

--事業内容やイベント開催はどのようにPRしたのですか。

ホームページ・Facebook ページでの年間を通じた双方向の情報発信・交流のほか、ポスター等を作成し、PR活動を実施しました。なお、PR活動費・作成費については、長野県の交付金事業「地域発元気づくり支援金」に申請し、支援いただきました。



上図：図書館にて、「高遠ぶらり」のポスター掲示の様子。

<http://takato-burari.info/>

導入効果（アウトカム）と導入規模（アウトプット）

導入効果（アウトカム）※

導入規模（アウトプット）

顧客	活用プログラム参加者数（観光客・学習者）	約 <b>800名</b> が参加	↑
顧客	教育機関（高等学校・小学校・ボーイスカウトなど）へのプログラム提供数	<b>4件</b> 提供・実施	↑
顧客	広域民間団体他との協働実績	<b>4件</b>	↑
プロセス	制作プロセスワークショップ参加者数	約 <b>200名</b> が参加	↑

アプリケーションダウンロード数 : **7,657件**  
(36か国)

※導入効果はバランス・スコアカードの視点（「財務の視点」「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」）を用いて記載しています。  
バランス・スコアカード：組織の業績・効率を計測する評価手法であり、事業のパフォーマンスを4つの視点によって評価・分析する手法。  
※調査期間：平成22年11月～平成25年3月



## 事業成功のポイントは、地域に開かれたスキームを用意したこと

## 今後の課題は、事業エンパワーメントの育成と、デジタルアーカイブ化に向けた財源基盤の確保

### 事業成功のポイント

本事業が地域の結びつきの強化や、地域学習・観光ツールとして利用されている理由は、制作の段階から、“地域に開かれたスキームを用意したこと”だと考えます。制作委員会方式を導入し、図書館等が単独でコンテンツを決定せず、プロデューサーの役割を担い、「ランドマークピンを立てるポイント」や「地域情報」等は、地域住民の方に参加いただいて、地域全体で事業サービスを構築しました。

この取組が、地域の結びつきを強めることに寄与し、また、本事業自体が地域に愛され、イベントを開催すると多くの方に参加いただける事業に成長したのだと考えます。

図書館には、多くの書物や資料が蓄積されています。しかし、地域には地域住民しか把握していない情報や、その土地に行かなければ感じることでない感覚が眠っています。本事業をとおして、それらの情報や感覚を、これからも伝えていきたいと考えます。

### 今後の課題と展望

課題の1つ目は、事業を運営するために“自立した主体を確保すること”です。本事業は、伊那市立図書館がプロデューサーとなり、事業を展開してきました。今後、さらなる地域活性化、地域に根差した事業として成長するためには、本事業を体験した住民や関係者から、エンパワーメントが発生し、事業主体として確立することを望んでいます。高校への授業材料の提供や観光ガイド育成のサポートなどのように、地域住民による主体性の確立に寄与する取組を今後も実施していきます。

課題の2つ目は、“デジタルアーカイブ化に向けた財政基盤の獲得”です。公共施設である伊那市立図書館としては、地域に点在する、付加価値の高い史歴情報を失わぬよう、統合的・横断的に管理する仕組み作りを行うべきと考えています。この取組に関しては、伊那市立図書館のみならず、複数の公共施設で取組むべきと考え、その財源基盤の確保を検討しています。

### 導入概算費用等

本システムを導入した場合の概算費用

- ・導入費用：約188万円（内訳：システムライセンス費用約140万円、機器等導入費約48万円）
- ※開発費用は発生していない。運用保守費用は、システムライセンス費用に含めているため、平成25年3月現在では発生していない。



本事業で利用し、伊那市立図書館で管理するiPadは、本事業のみでなく電子書籍導入実験など、多目的に使用することを目的に導入した。

### 事業実施体制

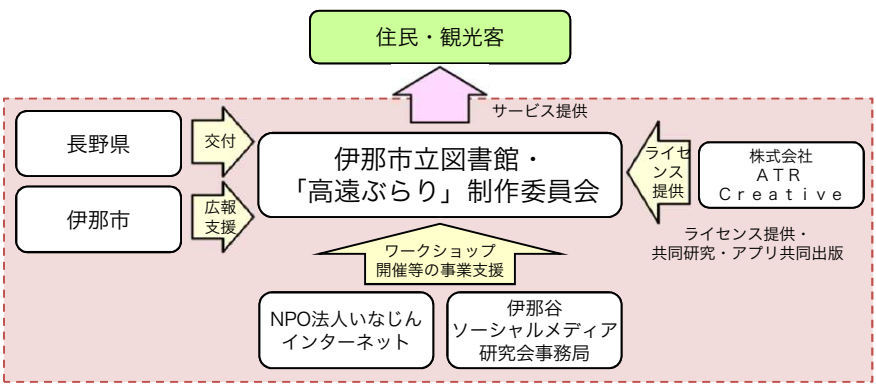
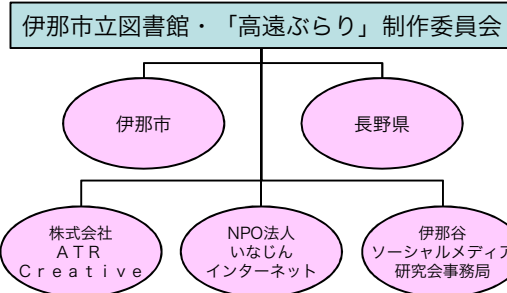
事業主体：伊那市立図書館・「高遠ぶらり」制作委員会  
 サービス：住民、観光客  
 提供対象

#### 事業実施体制

#### 事業実施関係図

凡例

■：実施主体等    ●：協力団体    □：ベンダ等



### <事業主体の横顔>



伊那市立図書館・「高遠ぶらり」制作委員会  
 所在地：長野県伊那市荒井3417-2  
 代表者：平賀 研也（伊那市立図書館）

ICTを活用して、ワクワクする発見と実感ある知の獲得の場である「伊那谷の屋根のない博物館」を創造します。地域に固有の情報と情報、情報と人、人と人がつながりなおすことで、地域の自然環境と人々の暮らしに学び、明日の社会を創るきっかけになるはずで。

<本件に関する問い合わせ先・導入検討・視察の相談先>  
 伊那市立図書館・「高遠ぶらり」制作委員会  
 電話 0265-73-2222

e-mail: BOK[atmark]inacity.jp

※スパム対策としてメールアドレスを一部変更して記載してあります。  
 eメールを御送付の際は、「[atmark]」を「@」に変えてご利用ください。